

James Molloy - MIRA Newsletter #19

JIMのみしまものがたり⑯ Rediscovering Mishima

夏季オリンピックの開催地として世界中から日本が注目を浴びることになる2020年。私が第二の故郷としてこの地にやってきて25年目を迎える年でもあります。振り返ってみると、この四半世紀は本当にあっという間でした。楽しい時間は足早に過ぎていくように感じるものですよね。



そしてこの『JIMのみしまものがたり』も5年目に突入しますが、自分の旅について思いを巡らせることができる機会を与えていただき、あらためて感謝します。

記事を書くときは、三島の街を散歩しながら文章を形にしていきます。その際たいてい同じ道や小径を歩くのですが、嬉しいことにいつも何か新しい発見が待っています。



向山古墳群

ごく最近、大場川沿いをサイクリングしました。美しく晴れた冬の一日のことです。今までに何度も訪れた場所なのに、凛とした空気ときれいに整備された川岸がとても新鮮で、まるで初めて来たかのように感じたのです。それから、向山古墳群まで初めて足を延ばしてみました。三島に住んでいたであろう大先輩が、4世紀から眠っている場所です。

約25年住んでいても、まだまだ見ていないもの、行ったことのない場所がたくさんあるんですね。私の三島散策はこれからも続きます。

フランスの小説家マルセル・プルーストもこう言いました。
『真の発見の旅とは、新しい景色を探すことではない。新しい目で見ることなのだ』と。



向山古墳群から市内を遠望

NO.
8

やさしい日本語の可能性



～「やさしい日本語」で話してみよう～

「やさしい日本語」とは、普段使っている言葉を外国人にもわかるように配慮した簡単な日本語のことです。

あなたも「やさしい日本語」で、身近な外国人と話してみませんか。

2019年2月に行われた『Beyond2020シンポジウム』で、小平市の「やさしい日本語x音声多言語翻訳」によるおもてなし「バリアフリー対応や外国人対応の観点から様々な工夫がみられるもの」と、特に優良なプログラムの一つとして紹介されました。観光で訪れる外国人の増加を考えると、三島でも同様の取り組みが期待されます。

また、4月に施行される改正入管法による外国人労働者受け入れ枠の拡大、外国籍の子どもの教育など、地域に住む外国人といかに共生していくか、受け入れる日本人側の姿勢も問われます。企業や行政の取り組みに加えて、市民一人ひとりの心構えも必要になってきます。外国人とのコミュニケーションが必要になった時には「やさしい日本語」を思い出して、はっきりした声で、文の最後まで、短く区切って伝えてみてくださいね。